

漁業経営強化
スマート漁業
に取り組んだ事例集

目次

1. 経営指導・スマート漁業の推進について

経営指導の体制について	・・・ P.1
支援事業について	・・・ P.1
経営計画の策定状況について	・・・ P.2
スマート漁業の推進について	・・・ P.3
スマート機器の種類について	・・・ P.3
スマート漁業の取組状況について	・・・ P.4

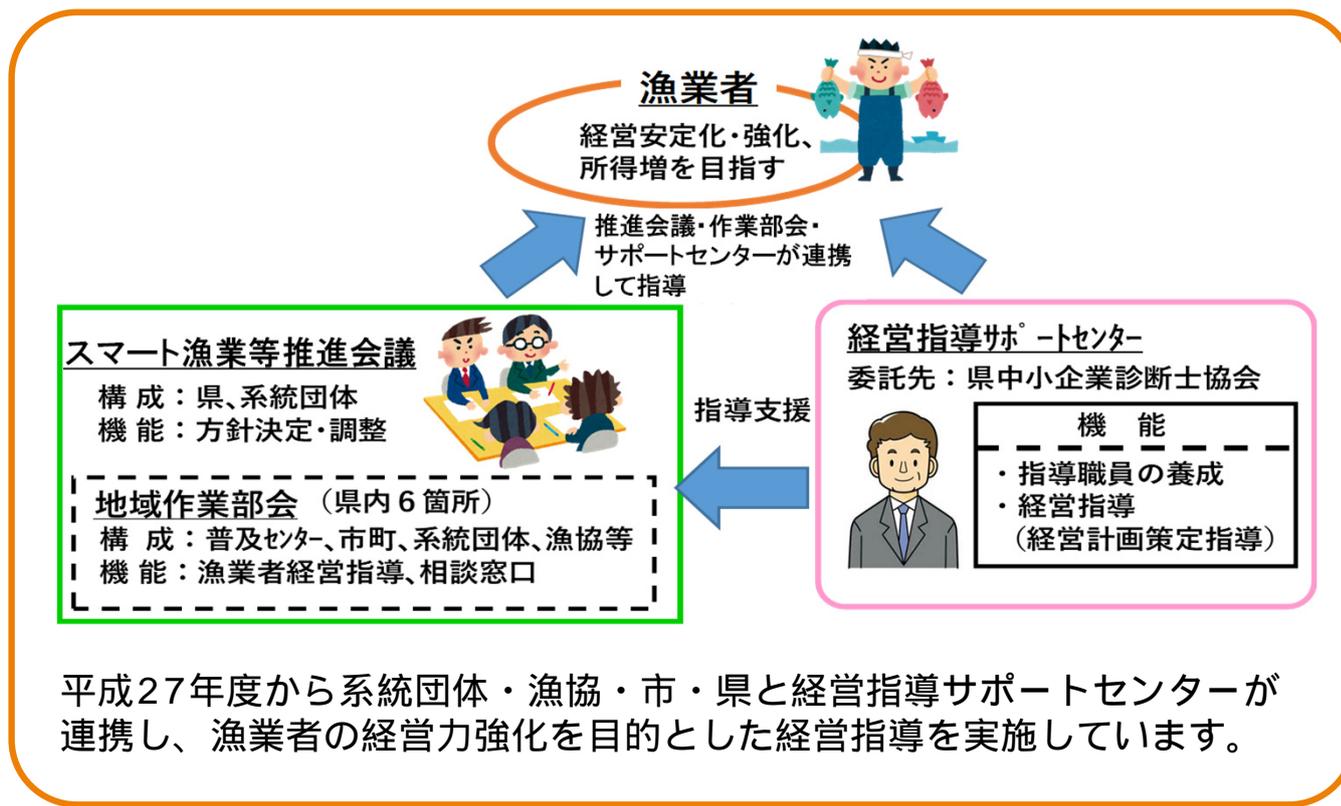
2. 経営計画策定者の優良事例

はえ縄の操業効率化と新漁法導入による経営力強化（県央）	・・・ P.5
新規漁業者の小型定置網導入による経営力強化（県南）	・・・ P.6
潮流計導入による操業効率化（県北）	・・・ P.7
兄弟で連携した一本釣の操業効率化（五島）	・・・ P.8
新規漁法導入による経営の安定化（上五島）	・・・ P.9
新規就業者の経営安定化（壱岐）	・・・ P.10
機関の換装とアナゴ加工による経営力強化（対馬）	・・・ P.11

3. スマート漁業の導入事例

漁師の目となる漁撈機器『ISANA』導入による操業効率化（県南）	・・・ P.12
『3D-GPSプロッター』の情報共有による操業効率化（県北）	・・・ P.13
『水質テレメーター』導入による赤潮被害防止対策（県北）	・・・ P.14
スマート機器の組み合わせによる操業効率化（五島）	・・・ P.15
『3D-GPSプロッター』導入による操業効率化（上五島）	・・・ P.17
電子操業日誌『トリトンの矛』導入による操業の効率化（壱岐）	・・・ P.18
『3D-GPSプロッター』と『CTD』の組み合わせによる収益力向上（対馬）	・・・ P.19

経営指導の体制について



平成27年度から系統団体・漁協・市・県と経営指導サポートセンターが連携し、漁業者の経営力強化を目的とした経営指導を実施しています。

支援事業について

支援事業のイメージ (R5年度～)

チャレンジぷらすONE

新たな漁法や海業・6次産業化などの導入にチャレンジ

+

既存漁法(一本釣) 新規漁法(はえ縄) 水産加工(6次産業化)

所得向上を目指す
経営計画を策定

所得向上支援対策

操業の効率化、資源変動や物価高騰などの環境変化への対応
既存の計画期間に生じた新たな課題に対応

スマート機器の導入

操業の効率化

経費の削減

学習会の開催

～知ってもらおう、学んでもらおう～

- スマート会計導入講座
- PC・クラウド会計、電子申告などの研修
- 漁業経営基礎講座
- 研修中の漁業者を対象に経営の基礎知識について研修
- 集中講座
- 経営の基礎、スマート水産業、先駆的技術について集中研修(座学)
- 出前講座
- 最新の業業技術、スマート機器等に関する学習会の開催(現地指導)

<新たにチャレンジ水産経営応援事業>

経営計画の実践に必要な施設や機器などの整備を支援(補助事業)

チャレンジぷらすONE

補助率: 1/3 ~ 2/3 (うち市町1/6以上)

補助対象上限: 20,000千円

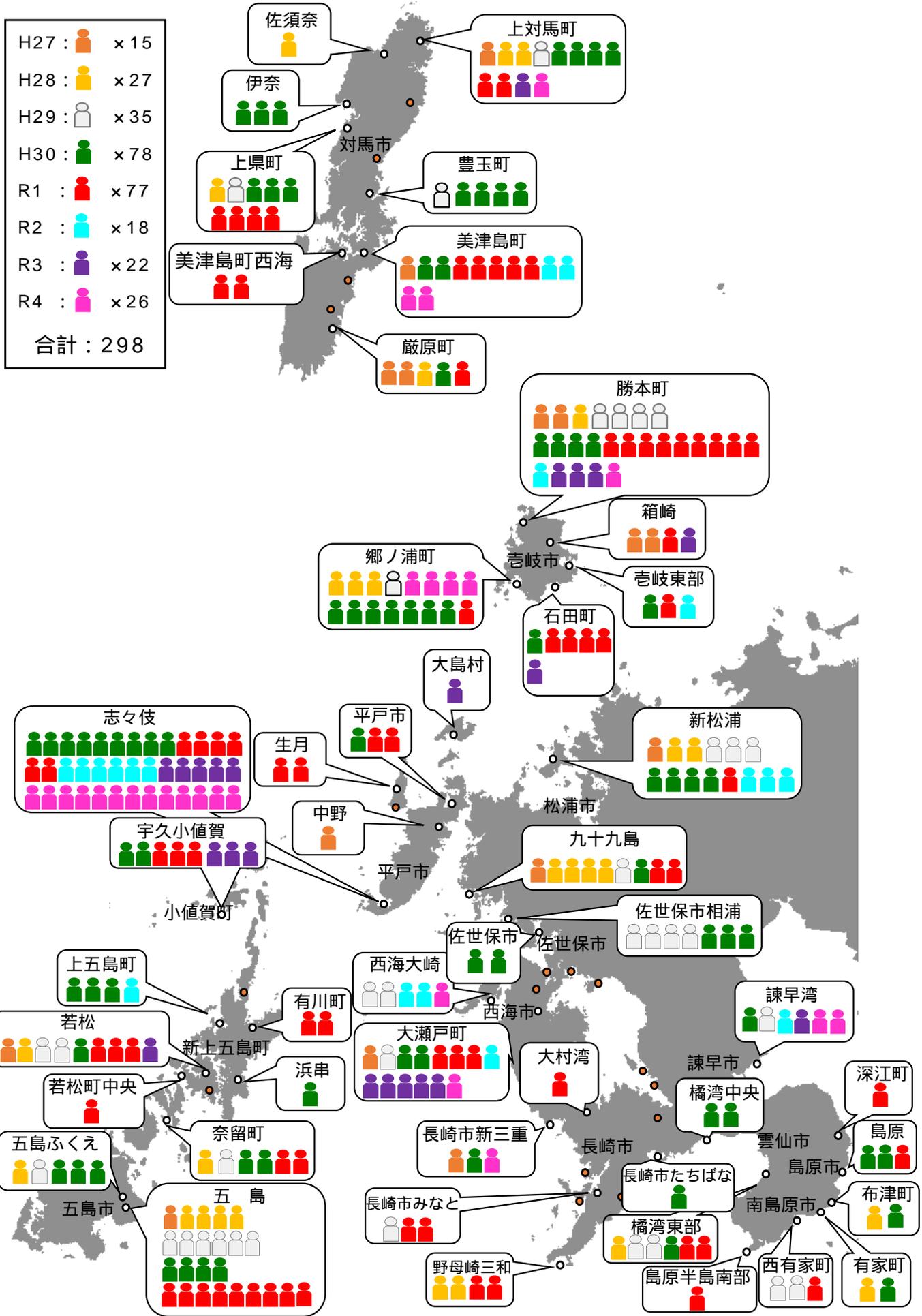
所得向上支援対策

補助率: 1/3 (うち市町1/6以上)

補助対象上限: 10,000千円

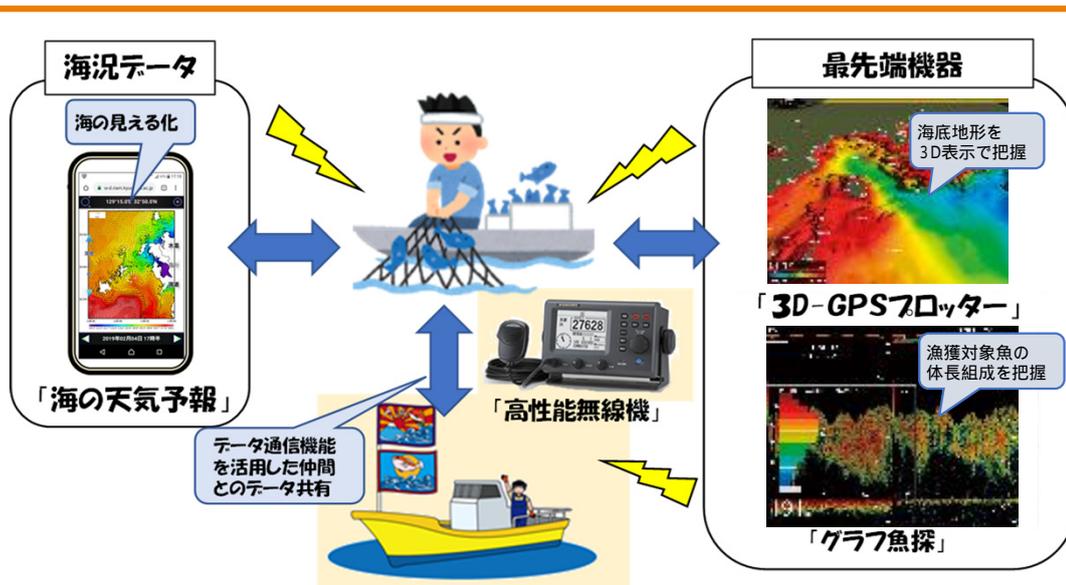
、ともに要件あり

経営計画の策定状況について



令和5年3月末時点（298計画策定）

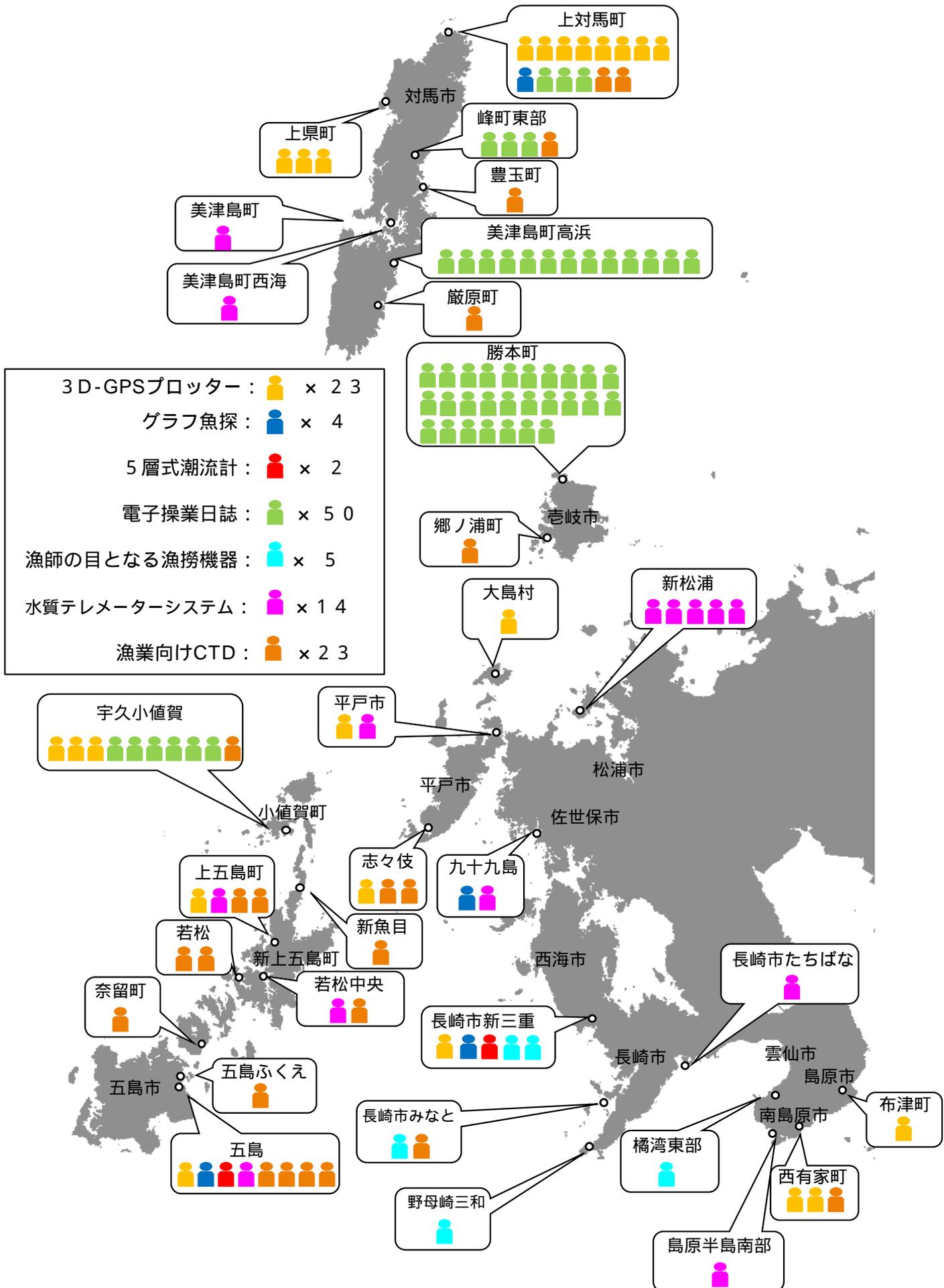
スマート漁業の推進について



令和3年度からはスマート漁業に取り組む漁業者を中心に経営指導を実施しています。スマート漁業に取り組んだ漁業者の中には大きく所得が増加した事例もあります。

スマート機器の種類について

対象漁業	機器の種類	機能	イメージ図
漁船漁業	3D-GPSプロッター	<ul style="list-style-type: none"> GPSの位置情報と魚探の水深情報をもとに海底地形を3D表示 正確な瀬や障害物の把握により操業の効率化に寄与 	
	グラフ魚探	<ul style="list-style-type: none"> 魚群の体長組成をグラフで表示 魚種やサイズの選択的な漁獲による操業の効率化に寄与 	
	5層式潮流計	<ul style="list-style-type: none"> 5層までの潮の流向/流速を同時表示 150m以深の潮流を測定 	
	漁師の目となる漁撈機器	<ul style="list-style-type: none"> 魚探やソナーなどの漁労機器のデータを一覧で可視化し、画面を共有（タブレットで確認） 各船の現在位置と航跡、機器データを可視化 	
	電子操業日誌	<ul style="list-style-type: none"> 操業日誌の電子化 航跡を自動記録し、漁獲情報と紐づけ 潮流や水温などの予測情報を表示 	
	漁業向けCTD	<ul style="list-style-type: none"> 海中の水温・塩分の海況情報を収集 Bluetoothでスマートフォンやタブレットと接続し、情報を共有 	
養殖業	水質テレメーターシステム	<ul style="list-style-type: none"> 水温、塩分、DOなど漁場の情報を全自動で観測 HPIにリアルタイム表示 	



令和5年3月末時点

当推進会議で確認できている件数です。他にも導入している場合があります。

県央地区 はえ縄の操業効率化と新漁法導入による経営力強化

1. 漁業の概要

- 操業海域 五島灘
- 漁業種類 一本釣、はえ縄、ひき縄
- 漁船規模 4.9トン（1人乗り）
- 対象魚種 イサキ、クエ、イトヨリ、アマダイ、マダイ、キダイ、タチウオ



年間操業スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
魚種 漁法	イトヨリ、アマダイ はえ縄				イサキ 一本釣			クエ はえ縄				

2. 操業上の課題

はえ縄漁場の潮流が速く複雑であり、漁具敷設に時間がかかっている。
9～10月はイサキの水揚げが少ない。

3. 経営計画の取組

潮流計の導入による効率的な操業（潮流に応じたはえ縄の敷設によりイトヨリやクエはえ縄の鉢数を増加させる）
タチウオひき縄の導入

《県・市から支援》
計画の実践に必要な潮流計・サテライトコンパスを整備

4. 取組の成果

潮流計導入により操業時間が増加し1日の漁獲回数が増加した。
導入したタチウオひき縄漁業により安定した水揚げが確保でき、魚価が下がったイサキの水揚げ高を補填できている。
（水揚げ前年比150%に増加）



潮流計ディスプレイ

コメント

『操業日数の増加やタチウオ漁の好調により水揚げが向上し、潮流計導入等の効果がR3年以降発現できています。更なる経営改善、漁法改善に期待します。』



中小企業診断士



漁業者

『経験や勘で見ていた潮流の速さや方向を数値で確認でき、一番良い時に縄を入れたり、潮に乗せて縄を設置したり、無理な時に縄揚げしないようにすることで、水揚げが多くなりました。』

1. 漁業の概要

- 操業海域 橘湾
- 漁業種類 小型定置網
- 漁船規模 4.6トン
- 対象魚種 アジ、ハマチ、タチウオ



年間操業スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
魚種 漁法	←		アジ、ハマチ、タチウオ 小型定置網					← 休漁 →		アジ、タチウオ 小型定置網 →		

2. 操業上の課題

県外からUターンして新規に就業。さし網など漁船漁業の水揚げは不安定なため、収益を確保できる新たな取組が必要である。

3. 経営計画の取組

水揚げが比較的安定し、収益を確保できる小型定置網の導入
活魚出荷の割合を高め、新たな取引先を開拓

《県・市から支援》
計画の実践に必要な
定置網漁具一式を整備

4. 取組の成果

自己資金が十分でない中、県・市の支援、漁協の協力で小型定置網に着業することができ、水揚げが向上して経営が安定した。
漁業所得が基準年比152%に増加。



コメント

『経営計画を上回る収益を確保しており、安定した経営ができています。』



中小企業診断士

『県補助事業の活用で、高額な定置網購入費（初期投資）を軽減でき、スムーズに自立できました。好調な水揚げで、安定した経営をしています。』



漁業者

県北地区 潮流計導入による操業効率化

1. 漁業の概要

- 操業海域 平戸～五島、対馬
- 漁業種類 一本釣、いか釣
- 漁船規模 9.7トン（2人乗り）
- 対象魚種 クエ、イカ類



年間操業スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
魚種 漁法	← クエ 一本釣 →		←		ケンサキイカ いか釣			→		← クエ 一本釣 →		→

2. 操業上の課題

メダいの漁獲が減少した。
いか釣の漁場である平戸・五島周辺海域は潮流把握が難しく、潮流の読み違いにより漁獲機会を失っている。

3. 経営計画の取組

潮流計の導入による効率的な操業
(クエ一本釣、いか釣における操業時間の増加を図る)

《県・市から支援》
計画の実践に必要な潮流計の整備

4. 取組の成果

潮読みの時間が短縮され、操業時間の確保ができるようになった。
漁業所得が基準年比155%に増加。

コメント

『経営計画書の取組を確実に行うだけでなく、出荷調整等の魚価向上策まで実行することで収支が大幅に改善し安定した経営ができています。』



中小企業診断士



漁業者

『経営計画を策定し、潮流計を導入した結果、航海中も操業中も、潮流の動きが一目で分かり、作業効率が向上し、作業時間の短縮に繋がったのが良かったです。今後も水揚げ向上、経費削減に努めたいと思います。』

五島地区 兄弟で連携した一本釣の操業効率化

1. 漁業の概要

- 操業海域 福江島周辺（南西沖）
- 漁業種類 一本釣、ひき縄
- 漁船規模 4.9トン（1人乗り）
- 対象魚種 マグロ、カツオ、ブリ
クロムツ、タチウオ他



年間操業スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
魚種 漁法	← マグロ他 一本釣 →		← クロムツ、チカメキントキ 一本釣 →				← タチウオ、マグロ、カツオ ひき縄 →					

2. 操業上の課題

探索場所の選定や魚群の探索に時間を要している。
兄弟2隻で出漁し遠方漁場で操業しているが、燃油費が負担となっている。

3. 経営計画の取組

兄弟で連携し、情報共有しながら操業することにより一本釣り操業を効率化

兄：ソナーにより魚群の蛸集分散や動態を把握

弟：レーダーによる探索場所の選定、プロッターや魚探を活用した瀬の位置情報の確認

《県・市から支援》
計画の実践に必要な
ソナー・レーダー
プロッター整備

4. 取組の成果

兄弟で連携しながら遠方漁場でチカメキントキ等の操業を主体としていたがコロナ禍、燃油価格の高騰を機にその時期に漁獲可能な魚種で価格の良いものを獲る操業に変更した。

漁業所得がそれぞれ基準年比159%、169%に増加。

コメント

『探索の効率化の課題があったが、兄弟で連携して経営計画を実行したことで、改善につながっています。経営も計画策定時より安定してきているので、引き続き前向きに取り組んでほしいと思います。』



中小企業診断士



漁業者

『経営計画を策定し、機器を導入した結果、漁業所得を向上させることができました。燃油価格の高騰により燃油費は増加していますが、減速航行等による燃油費削減にも取り組んでいます。』

上五島地区 新規漁法導入による経営安定化

1. 漁業の概要

- 操業海域** 五島列島近海
- 漁業種類** たこつぼ、ひき縄、はえ縄
- 漁船規模** 5.9トン（1人乗り）
9.1トン（2人乗り）
- 対象魚種** マダコ、ヨコワ、タチウオ
ケンサキイカ、クエ他



年間操業スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
魚種	ヨコワ他				マダコ				ケンサキイカ、クエ			
漁法	ひき縄				たこつぼ				いか釣、はえ縄			

2. 操業上の課題

クロマグロ資源管理の強化によりヨコワひき縄漁の収入が減少した。秋の漁閑期のは収入が少ない。

3. 経営計画の取組

クロマグロ資源管理強化による減収を補うため、漁閑期である秋季にケンサキイカー本釣とクエはえ縄を導入

《県・市から支援》
計画の実践に必要な
集魚灯・安定器・釣機・
補機・漁具等を整備

4. 取組の成果

漁閑期である秋期にケンサキイカー本釣とクエはえ縄を導入した結果、水揚げが増加した（基準年比113%に増加）。
漁業所得が基準年比131%に増加。

コメント

『国際的な枠組みによるクロマグロ漁獲規制が継続する中、新規漁法の導入により水揚金額の増加及び所得向上を実現できています。また、会計管理についても強化が図られており、優れたモデル経営体と言えます。今後は更なる経営改善だけでなく、同業者への波及（指導も含めて）も期待します。』



中小企業診断士



漁業者

『経営計画を策定し、漁閑期である秋季にケンサキイカー本釣とクエはえ縄を導入したことにより水揚げが増加し、所得を向上させることができたのがよかったです。今後も更なる所得向上に努めたいと思います』

1. 漁業の概要

- 操業海域 壱岐島東部
- 漁業種類 一本釣、ひき縄
- 漁船規模 3.3トン（1人乗り）
- 対象魚種 サワラ、クエ、ケンサキイカ



年間操業スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
魚種 漁法	←	サワラ ひき縄	→	クエ 一本釣	←	ケンサキイカ いか釣	→	クエ 一本釣	←	クエ 一本釣	→	

2. 操業上の課題

漁業就業研修終了後、独立して漁業を開始するにあたり、漁船や機器類を整備する必要がある。
漁獲物の鮮度管理の徹底を行い、付加価値向上に取り組む必要がある。

3. 経営計画の取組

漁船や機器類を購入し、独立して漁業を開始
（漁村支援交付金活用）
サワラなどの漁獲物の鮮度管理を徹底し、魚価
向上の取組を実施

《国・県・市から支援》
計画の実践に必要な
漁船を整備

4. 取組の成果

様々な魚種で鮮度管理を徹底し、魚価を向上させ水揚げ向上に繋がった。
同地区の同規模漁業者の水揚げを目標（基準）に操業し、水揚げが増加した（基準比127%に増加）。



コメント

『R元年の漁業開始から順調に水揚金額が増加しています。サワラやイカ類が不漁の時でもクエをはじめ、その時期に獲れる魚種を臨機応変に漁獲することで水揚げの底上げを図っています。新規就業者として先入観を持たずに積極的に新しい対象魚種・漁法を取り入れる姿勢が強みとなっています。』



中小企業診断士



漁業者

『現状や目標が明確になり、具体的にどのような行動が水揚げにつながるのかを考えながら操業したことで水揚増につながりました。』

対馬地区 機関の換装とアナゴ加工による経営力強化

1. 漁業の概要

- 操業海域 対馬島西沖
- 漁業種類 アナゴかご
- 漁船規模 19トン（4人乗り）
- 対象魚種 マアナゴ



年間操業スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
魚種 漁法	←					アナゴ アナゴかご		→				

2. 操業上の課題

エンジンおよび補機の老朽化により故障の頻度が増加し出漁日数が減少している。
 餌イカの価格が10年前から2倍以上に高騰、餌代が売上額の24%まで上昇し経営を圧迫している。



3. 経営計画の取組

エンジン一式の交換
 出荷時に弱って廃棄していたアナゴを加工
 冷凍保存し、加工業者向けに販売

《国・県・市から支援》
 計画の実践に必要な
 機関・加工場・冷凍設
 備を整備

4. 取組の成果

出漁日数が増加し、水揚が増加。修繕費や燃料費を削減し収益力が向上した。
 整備した冷蔵庫を活用し、餌イカの安定確保を実現するとともに、売上増により漁業所得が基準年比122%に増加。



コメント

『漁獲物の優れた品質管理技術をもって、独自の販売ルートを確立。コロナ禍に対応する経営モデルとして地域の模範となっています。』



中小企業診断士



漁業者

『経営内容を把握し、収益向上に必要な設備投資ができました。自然相手の経営ですので、従業員の意見も良く聴いて堅実な経営を目指します。』